

平成26年度

# 加茂市内遺跡確認調査報告書

中 沢 遺 跡

鬼 倉 遺 跡

2015

新潟県加茂市教育委員会

平成26年度

# 加茂市内遺跡確認調査報告書

中 沢 遺 跡  
鬼 倉 遺 跡

2015

新潟県加茂市教育委員会

## 序

我が加茂市は山紫水明の地として知られ、「北越の小京都」と呼ばれています。その大地には豊かな自然に育まれた悠久の歴史が埋蔵文化財として存在しています。これまでに、175 か所が遺跡登録されています。

加茂川の上流部に位置する七谷地区では、旧石器時代や縄文時代の遺跡が多く確認されています。これと対をなすように加茂川下流域や下条川下流域の平らな水田の下からは古墳時代～平安時代の遺跡が多く発見されています。市内各所で先人たちの営みがあり、地域固有の貴重な文化財が埋蔵されています。

現代の私たちは様々な開発事業を計画する中で、埋蔵文化財との関わりを避けるわけにはいきません。埋蔵文化財包蔵地が工事によってやむを得ず壊される場合は、発掘調査を行い、記録として保存し、後世に引き継ぐことになります。

本書はそうした開発事業と文化財保護との調整をするために行われた試掘・確認調査の結果報告書です。平成26年度には、2遺跡において調査を行いました。いずれも小規模な調査で、大きな成果があるものではありませんが、調査で得られたささやかな知見が各地域における歴史の記録として、今後活用されることを願っています。

このたび、本書を刊行することで、当地域の学術・研究資料として多くの皆様に活用され、埋蔵文化財に対する理解と保護思想が深まれば、この上なく幸せであります。

最後に、発掘調査に対して様々なご指導とご協力を頂いた新潟県教育庁文化行政課、並びに確認調査に参加された地元の方々、地権者および工事関係者に対し、ここに深甚なる謝意を表する次第であります。

平成27年7月

加茂市教育委員会

教育長 殖 栗 敏 夫

## 例 言

- 1 本報告書は、平成 26 年度に新潟県加茂市内の各種開発に伴い実施した 2 遺跡における試掘・確認調査の記録である。
  - 2 調査は中沢遺跡が倉庫建設工事、鬼倉遺跡が排水路改良工事に伴い実施したものである。
  - 3 試掘・確認調査の経費は、中沢遺跡を除いて国庫および県費の補助金交付を受けた。
  - 4 調査は加茂市教育委員会が主体となり実施した。調査体制（平成 26 年度）は以下の通りである。

調査主体	加茂市教育委員会	教 育 長	殖栗 敏夫
総 括		社会教育課長	金子 正文
庶 務		社会教育課主査	石井美代子
調査担当		社会教育課課長補佐	伊藤 秀和

現場作業員 石田 卓・千葉泰行・中川賢一（公益社団法人加茂市シルバー人材センター会員）  
整理事業員 櫻井恵美子
  - 5 調査記録図面・写真類、出土遺物は一括して加茂市教育委員会が保管している。
  - 6 本書で示す方位はすべて真北である。
  - 7 挿図に使用した既存図面については、その出典を記した。
  - 8 写真図版 1 の空中写真は、平成 10 年の馬越遺跡の発掘調査に伴い撮影したものを使用した。
  - 9 引用・参考文献は著者と発行年（西暦）を〔 〕で文中に示し、巻末に一括して掲載している。
  - 10 本報告書の執筆と編集はすべて伊藤秀和が行った。
  - 11 遺物の写真撮影はフォーカルに委託した。
  - 12 挿図、写真図版の版組みおよび全体のデジタル編集・データ化は、(有)不二出版に委託した。
  - 13 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の諸氏から多大な御教示・御協力を賜った。厚く御礼申し上げます。敬称省略・五十音順、機関などは順不同
- 池野芳男・小熊博史・立木宏明  
(社)加茂市シルバー人材センター・勝喜産業(株)・(株)涌井建設工業・加茂郷土地改良区  
加茂市建設課・加茂市都市計画課・新潟県教育庁文化行政課・加茂市文化財調査審議会

# 目 次

第Ⅰ章 序 説	1
1 平成26年度事業の概要	1
2 遺跡の位置と環境	1
第Ⅱ章 倉庫建設工事関連	3
1 調査に至る経緯	3
2 中沢遺跡	3
(1) 遺跡と確認調査の概要	3
(2) 層 序	4
(3) 遺構と遺物	4
(4) 調査のまとめ	4
第Ⅲ章 農業基盤整備事業関連	5
1 調査に至る経緯	5
2 鬼倉遺跡	5
(1) 遺跡と確認調査の概要	5
(2) 層 序	7
(3) 遺構と遺物	7
(4) 調査のまとめ	7
第Ⅳ章 ま と め	8
《引用・参考文献》	8
《別 表》	8
《報告書抄録》	巻末

## 挿 図 目 次

第 1 図	調査対象遺跡位置図……………2	第 4 図	鬼倉遺跡推定範囲と調査対象地位置図……6
第 2 図	中沢遺跡推定範囲と確認調査トレンチ 位置図……………3	第 5 図	鬼倉遺跡確認調査トレンチ位置図…………6
第 3 図	中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図……4	第 6 図	鬼倉遺跡確認調査トレンチ土層柱状図……7
		第 7 図	鬼倉遺跡出土遺物……………7

## 表 目 次

第 1 表	平成 26 年度発掘調査工程表……………1
-------	-----------------------

## 写真図版目次

写真図版 1	【中沢遺跡】		
	調査地遠景（南から）	調査地近景（北から）	調査地近景（南東から）
	1 トレンチ土層断面（北西から）	4 トレンチ土層断面（西から）	
写真図版 2	【鬼倉遺跡】		
	1～8 トレンチ調査地近景（北西から）	9～19 トレンチ調査地近景（南から）	
	7 トレンチ調査風景（南から）	17 トレンチ調査風景（南西から）	1 トレンチ土層断面（北東から）
	2 トレンチ土層断面（北東から）	3 トレンチ土層断面（北東から）	4 トレンチ土層断面（北東から）
写真図版 3	【鬼倉遺跡】		
	5 トレンチ土層断面（北東から）	6 トレンチ土層断面（北東から）	7 トレンチ土層断面（北東から）
	8 トレンチ土層断面（北東から）	9 トレンチ土層断面（南東から）	10 トレンチ土層断面（南東から）
	11 トレンチ土層断面（南東から）	12 トレンチ土層断面（南東から）	
写真図版 4	【鬼倉遺跡】		
	13 トレンチ土層断面（南東から）	14 トレンチ土層断面（北西から）	15 トレンチ土層断面（北西から）
	16 トレンチ土層断面（北西から）	17 トレンチ土層断面（南東から）	18 トレンチ土層断面（南東から）
	19 トレンチ土層断面（南東から）	出土遺物	

# 第 I 章 序 説

## 1 平成 26 年度事業の概要

現在の加茂市の周知の埋蔵文化財包蔵地の数は 175 である。これは、平成 7 年に新潟県教育委員会主催で実施された詳細分布調査が大きな成果をあげた結果である。詳細分布調査は特に沖積地で成果をあげ、後の開発協議において重要な資料を提供した。そして、鬼倉遺跡や馬越遺跡などの大規模な発掘調査を導くことになった。

加茂市では大規模に発掘調査された遺跡の報告書刊行も完了しており、発掘調査で得られた考古資料の公開・活用が喫緊の課題となっている。なお、市内の試掘・確認調査事業については平成 7 年度から国庫補助事業として開始しており、各種の開発事業との調整を図るうえでの防波堤となっている。今後も小規模な開発であっても事業の計画段階で早期に協議を進め、精度の高い効率的な調査を実施していくことが開発側と保護する側、双方に求められている。

平成 26 年度の試掘・確認調査は、従来から周辺で様々な開発が行われてきた 2 遺跡で行われた。中沢遺跡が加茂市の倉庫建設工事、鬼倉遺跡が加茂郷土地改良区の農業排水路改良工事を調査原因とした。

上記の調査のほか、平成 26 年度には平成 25 年度加茂市内遺跡確認調査報告書と高柳城跡測量・確認調査報告書を刊行した。

遺跡名	調査	調査原因	遺跡の 主な時代	月 ※現場調査期間												備考	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
中沢遺跡	確認	倉庫建設	弥生～中世						■								加茂市事業
鬼倉遺跡	確認	排水路改良	古墳・古代							■				■			

第 1 表 平成 26 年度発掘調査工程表

## 2 遺跡の位置と環境 (第 1 図)

加茂市は新潟県のほぼ中央の県央域に位置し、中越地区に含まれる。市域は田上町、五泉市、新潟市、三条市と接している。地勢は東部に高さ 1,000m を超える粟ヶ岳、権ノ神岳などの山岳が聳え、粟ヶ岳を源とする加茂川が大谷川、高柳川などの支流を集め、谷底平野を縦貫し、加茂新田地区で信濃川に注ぐ。加茂川の流域延長は約 11km である。

加茂川上流部は「七谷」地区と呼ばれ、加茂川およびその支流が小規模な段丘を形成し、旧石器時代～縄文時代の遺跡が多く分布する。一方、弥生～古代の遺跡はほとんどなく、中世では小規模な山城や信仰関連遺物が多く確認される。加茂川が東山丘陵を抜けた市街地域には扇状地形が形成され、弥生時代後期後半頃に開発が開始される。沖積地では古墳時代前期に開発が進行し、その後若干の空白期間を挟んで、奈良・平安時代の遺跡が多く確認されている。

中沢遺跡 (1)、鬼倉遺跡 (2) は下条川右岸域の沖積地に広範囲に展開する。中沢遺跡は東山丘陵から緩やかに張り出す扇状地の先端部～沖積地にかけて広がる。南東部が市街地域に近接することから開発

## 2 遺跡の位置と環境

が多く見られる。鬼倉遺跡は中沢遺跡の北西方向に隣接して所在し、より下流域沿いで低平な水田地帯に大きく広がる。



第1図 調査対象遺跡位置図 (S=1:50,000)

(国土地理院 平成17年発行〔加茂〕・平成9年発行〔新津〕 S=1:50,000 原図)



## 第Ⅱ章 倉庫建設工事関連

### 1 調査に至る経緯

本件は加茂市がJ Aにいがた南蒲北低温倉庫建設用地を造成するものである。開発部局と教育委員会(以下、市教委)は、協議を重ね工事施工業者の協力を得ながら、9月に中沢遺跡の確認調査を実施することで合意した。

事務的な手続きは、建第 1485 号の埋蔵文化財発掘の通知が加茂市長から市教委へ、民資第 136 号の埋蔵文化財の発掘については、確認調査が必要との意見を付し、新潟県教育委員会教育長宛てへ、民資第 138 号の埋蔵文化財発掘調査の報告を新潟県教育委員会教育長宛てにすべて平成 26 年 11 月 14 日付けの確認調査終了後に行った。

なお、鬼倉遺跡については範囲内での工事が極めて少ないことから、外周へのL字型擁壁設置の掘削工事に伴う工事立会いを 11 月上旬に行った。

### 2 中沢遺跡

#### (1) 遺跡と確認調査の概要 (第 2 図)

中沢遺跡は下条川右岸で市街地のある扇状地先端部から沖積地にかけて広がる。遺跡の推定面積は約 27 万 m<sup>2</sup> である。現況はほとんどが水田で、現地表面の標高は約 8m 前後である。

遺跡は平成 7 年に周知化された後、断続的に開発の波が押し寄せ、確認調査や本調査が行われてきた〔伊藤 2005 ほか〕。遺跡からは弥生時代～近世までの遺構・遺物が確認されているが、主体となる時期は弥生時代後期と奈良・平安時代である。



第 2 図 中沢遺跡推定範囲と確認調査トレンチ位置図 (S=1:3,000)

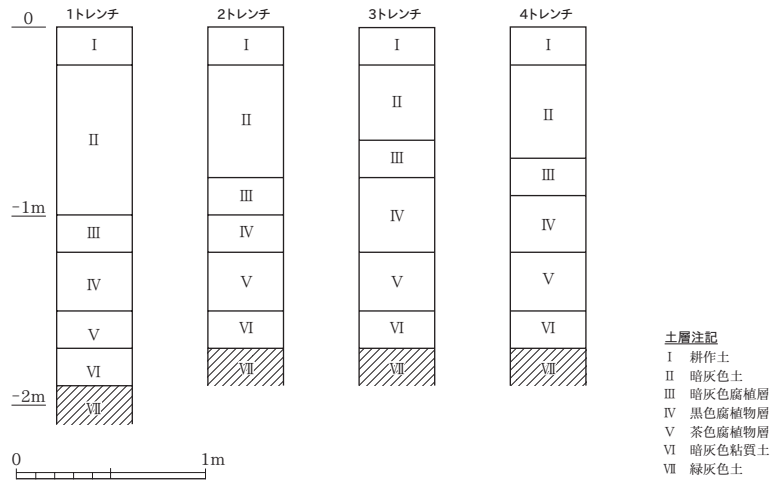
(加茂市 平成 17 年印刷 [加茂市街図その 11] S=1:2,500 原図)

## 2 中沢遺跡

調査対象地は遺跡推定範囲の北部に位置し、現地表面の標高は約7～8mである。確認調査は、平成26年9月18日に行われた。工事計画予定地内の主に外縁部を対象として任意のトレンチを設定し、重機により約2.0×4.0mの大きさを4か所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。調査終了後は転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約34m<sup>2</sup>である。

### (2) 層序 (第3図)

基本土層は、I層耕作土、II層暗灰色土、III～V層が腐植物層、VI層暗灰色粘質土、VII層緑灰色土の堆積が認められる。周辺の調査を参考にすると、VI層が遺物包含層、VII層が地山で遺構確認面に相当するものと考えられる。



第3図 中沢遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)

### (3) 遺構と遺物

遺構・遺物ともに確認されなかった。

### (4) 調査のまとめ

今回の調査対象区域における調査可能深度内においては、遺構・遺物は確認できず、遺跡は存在しないものと判断できる。

## 第三章 農業基盤整備事業関連

### 1 調査に至る経緯

農業基盤整備事業に関連し、1遺跡に対して確認調査を行った。事業は加茂郷土地改良区が主体で、計画区域について6月上旬に把握し、協議を開始した。事業は、鬼倉遺跡地内において計画され、現況土水路を重機で再掘削し、コンクリート2次製品の排水フリーム(400×300)を設置する工事内容である。工区は2か所あり、それぞれ施工業者が異なることから、各々の施工時期に対応する必要が生じた。

文化財保護法第93条第1項の規定による埋蔵文化財発掘の届出については、平成26年7月4日付け加土改第111号で加茂郷土地改良区理事長から新潟県教育委員会教育長宛てに出された。これを受けて市教委では、現況と工事内容を考慮しながら、対応を判断した。その結果、工事の掘削幅が約1.2mあることから確認調査が必要とした。埋蔵文化財の発掘については平成26年7月4日付け民資第79号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。その後、工区ごとに関係者と調整を行い調査の準備に入った。文化財保護法第99条第1項の規定による埋蔵文化財発掘調査の報告については、それぞれ平成26年10月17日付け民資第110号、平成27年1月5日付け民資第1号で新潟県教育委員会教育長宛てに提出した。

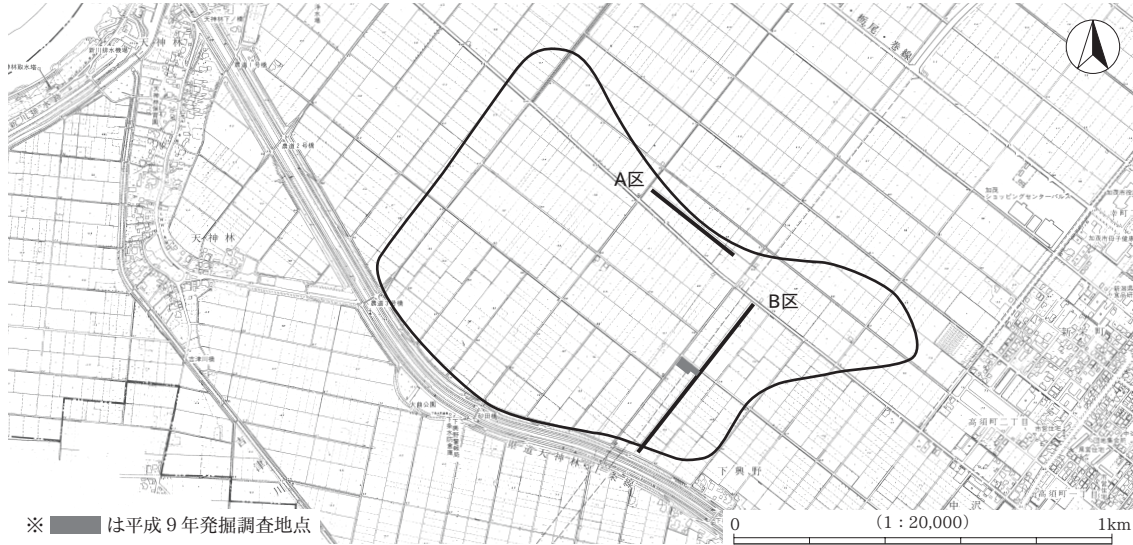
### 2 鬼倉遺跡

#### (1) 遺跡と確認調査の概要(第4・5図)

鬼倉遺跡は下条川右岸の沖積地に位置し、遺跡の推定面積は約84万m<sup>2</sup>と広大な範囲が周知化されている。現況はほとんどが水田である。遺跡は平成7年に周知化された後、国道403号線三条北バイパス建設に伴う発掘調査が平成9年に行われた。調査では9世紀前半の集落が確認され、河川跡に堰を設けるなど土木工事の遺構が検出された。河川跡からは多くの墨書土器や和同開珎、神功開寶など希少な遺物が出土した。石帯も出土し、有力者により地域開発が行われたものと考えられる〔伊藤2001〕。

調査対象地は2地点ある。A区は延長約270mの現況土水路部分で、遺跡推定範囲の東部にある。B区は延長約500mの現況土水路部分で、国道403号線バイパスに平行し、平成9年の発掘調査区に近接する。周辺の現地表面の標高は約6～7mである。A区の確認調査は、平成26年10月23日に行われた。工事計画予定地内を対象として任意のトレンチを設定し、重機により約1.3×1.4mの大きさで8か所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。掘削の深度については、排水路改修工事の最深部(現況土水路底面から約-40cm)までとしたが、3か所(2・5・7トレンチ)で、それ以上に掘り下げて、調査を行なった。調査終了後は転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約12.4m<sup>2</sup>である。B区の確認調査は、平成27年1月8日・9日に行われた。A区と同様に工事計画予定地内を対象として任意のトレンチを設定し、重機により約1.4×1.5mの大きさで11か所掘削し、遺構・遺物の検出および層序の確認を実施した。トレンチの番号についてはA区からの連番とした。掘削の深度については、排水路改修工事の最深部(現況土水路底面から約-30～70cm)までとしたが、3か所(13・14・15トレンチ)で、それ以上に掘り下げて、調査を行なった。調査終了後は転圧しながら埋め戻しを行った。調査面積は約23m<sup>2</sup>である。

2 鬼倉遺跡



第4図 鬼倉遺跡推定範囲と調査対象地位置図 (S=1:20,000)  
 (加茂市 平成20年印刷 [加茂市街図] S=1:10,000 原図)



第5図 鬼倉遺跡確認調査トレンチ位置図 (S=1:5,000)  
 (加茂市 平成17年印刷 [加茂市街図その11] S=1:2,500 原図)

(2) 層序 (第6図)

A区の基本土層は地点により異なるが、畦畔の下にI層水田耕作土、II層灰色粘質土、III層灰色砂質土、IV層暗灰色粘質土、V層暗灰色砂質土、VI層暗茶色腐植物層、VII層灰色腐植物層が堆積する。遺物包含層と遺構確認面(地山)は確認できていない。B区の基本土層も地点により異なるが、9～13トレンチでは畦畔の下にI層水田耕作土、II～V層が灰色または暗灰色粘質土および砂質土、VI層暗灰色土、VII層灰色粘質土、VIII層暗黒色土が堆積する。14トレンチでは畦畔の下にI層水田耕作土、II層暗灰黒色土、III層灰色粘質土、IV層暗灰黒色土、V層緑灰色土が堆積する。15～19トレンチでは畦畔の下にI層水田耕作土、II層暗灰色土、III層暗茶色腐植物層、IV層灰色腐植物層が堆積する。周辺の調査結果を参考にすると13トレンチのVIII層と14トレンチのIV層が遺物包含層、14トレンチのV層が遺構確認面(地山)に対比される。

(3) 遺構と遺物 (第7図)

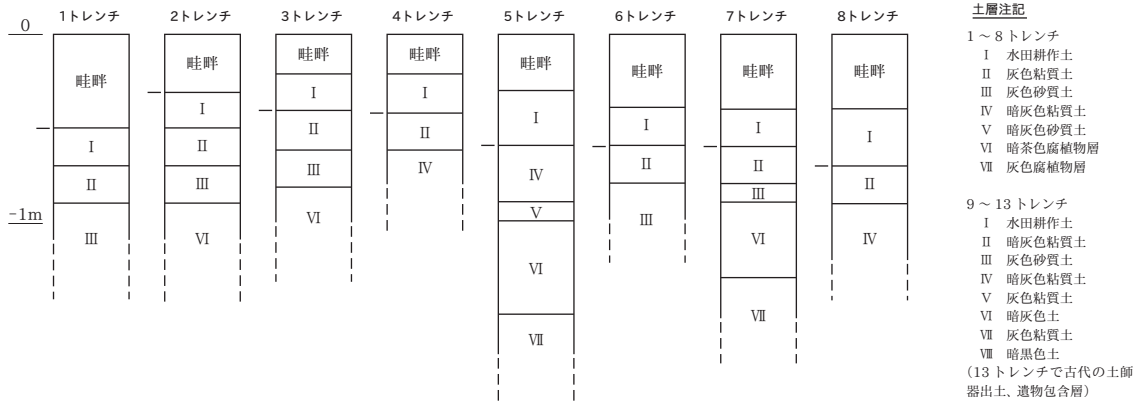
遺構は確認されなかった。遺物は13トレンチから土師器が5点出土した。

1は土師器小甕の底部片である。底径7.0cmで、底部外面に糸切り痕がある。内面の一部にはススが附着する。平安時代のものであろう。

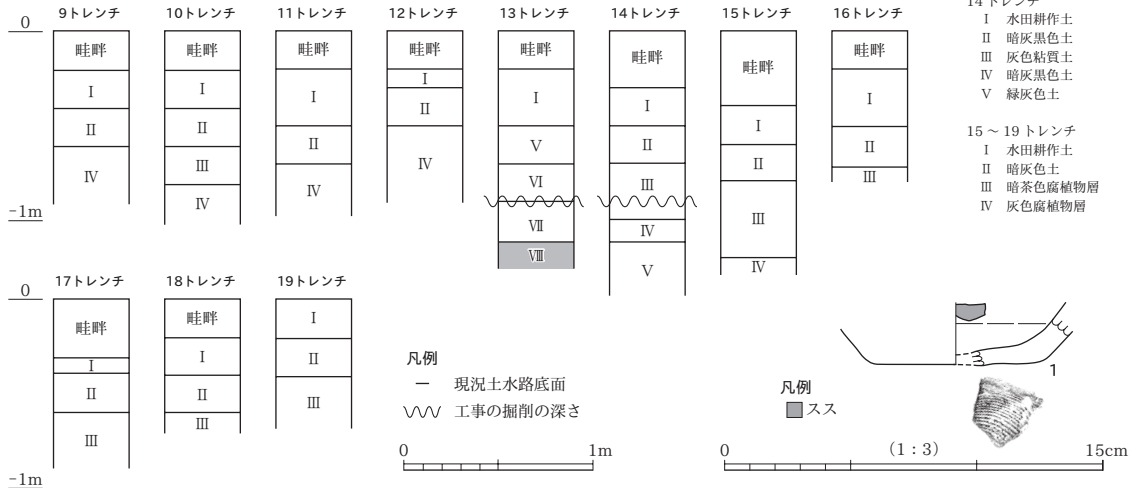
(4) 調査のまとめ

今回の調査で、B区の13トレンチの現地表面下約1mのVIII層から古代の土器が出土し、周辺にかけて遺跡が存在することと遺物出土層位を確認できた。しかし、今回の排水路改良工事は掘削深度がいずれも遺物包含層には達しないほど浅いことから遺跡に影響を与えないことが理解できる。

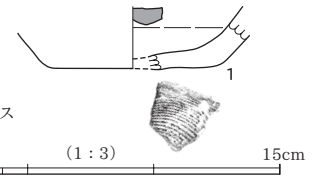
A区 (1～8トレンチ)



B区 (9～19トレンチ)



第6図 鬼倉遺跡確認調査トレンチ土層柱状図 (S=1:40)



第7図 鬼倉遺跡出土遺物

## 第IV章 ま と め

本書に収録した確認調査は、中沢遺跡と鬼倉遺跡の2遺跡を対象とした。ともに下条川右岸の沖積地に位置し、過去に本発掘調査が実施され、性格の一端が明らかにされている重要な遺跡である。

**中沢遺跡** 今回の調査対象地は遺跡推定範囲の最北部にあたる。既往の調査で確認していた土層との対比はできたが、遺構・遺物は存在しなかった。調査地は遺跡の縁辺に相当し積極的な活動痕跡を留めない区域と判断される。中沢遺跡は市内では貴重な複合遺跡であり、これまでに弥生時代後期と奈良・平安時代の集落が発掘調査されている。遺跡の現況はほとんどが水田であるが、今後も排水路改良工事などが予測され、適切な保護行政のもと、地域史を語る上で重要な資料の保存に遺漏のないよう努めたい。

**鬼倉遺跡** 調査対象区域で異なる土層が堆積する。遺跡推定範囲の東部にあるA区と南部にあるB区の15～19トレンチ周辺では腐植物層の堆積が顕著に見られ、旧地形が低く湿潤な環境下にあったことが推測される。13トレンチは平成9年の発掘調査区に隣接したところにあるが、現地表面下約1mで古代の集落が存在することが確認された。当然のことではあるが、広大な遺跡の周知範囲の中には多くの地形の高低差が隠れており、一律ではない景観のもと、遺跡が確認されることを再認識した。

本書で報告した2遺跡の調査成果からは、主に遺跡範囲内の異なる土層堆積を把握することができた。中沢遺跡では調査対象地を遺跡の範囲から除外することとした。鬼倉遺跡では従来の調査成果を追認する結果が得られた。これらの情報を各遺跡の基礎資料として蓄積し、今後の埋蔵文化財保護行政の重要なデータとして活用したい。

## 引用・参考文献

- 伊藤秀和 2001 『加茂市文化財調査報告(13) 鬼倉遺跡－国道403号線道路改良工事に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書－』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2005 「第八章 まとめ 2 中沢遺跡の調査履歴について」『加茂市文化財調査報告(15) 平成15年度加茂市内遺跡確認調査報告書 西吉津川遺跡 馬越遺跡 太田遺跡 寺下遺跡 城下遺跡 伝下屋敷館跡 割沢遺跡 中沢遺跡』 加茂市教育委員会
- 伊藤秀和 2014 『加茂市文化財調査報告(25) 平成25年度 加茂市内遺跡確認調査報告書 丸瀧遺跡 中沢遺跡』 加茂市教育委員会
- 小山正忠・竹原秀雄 (農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修) 1967 『新版標準土色帖』(1998年版) 日本色研事業株式会社

## 別 表

### 凡 例

- 1 残存率 ※/36で残存割合を示した。 3 焼成 観察者の主観的判断で「良好」、「並」、「不良」に分類した。
- 2 含有物 土器の胎土中に含まれる鉱物等について記した。 4 色調 『新版標準土色帖』(小山・竹原1967)(1998年版)の記号を記した。  
「石」は石英粒、「砂」は砂粒を表す。

別表1 鬼倉遺跡 土器観察表

図No.	報告番号	種別	器種	法 量 (cm)			残存率		胎土含有物	焼成	色 調		手 法			回転方向	備 考
				口径	底径	器高	口縁	底部			外面	内面	外面	内面	底部		
7	1	土師器	小甕		7.0			6/36	石・砂	並	10YR7/2 にぶい黄橙	7.5YR7/4 にぶい橙	ロクロナデ、 ケズリ	ロクロナデ	糸きり	右	13トレンチ、内面ス

# 写真図版



中沢遺跡・鬼倉遺跡 調査地遠景（南から） ※中央部は馬越遺跡（平成10年発掘調査区域）



中沢遺跡 調査地近景（北から）



中沢遺跡 調査地近景（南東から）



中沢遺跡 1 トレンチ土層断面（北西から）



中沢遺跡 4 トレンチ土層断面（西から）





鬼倉遺跡 1～8 トレンチ調査地近景（北西から）



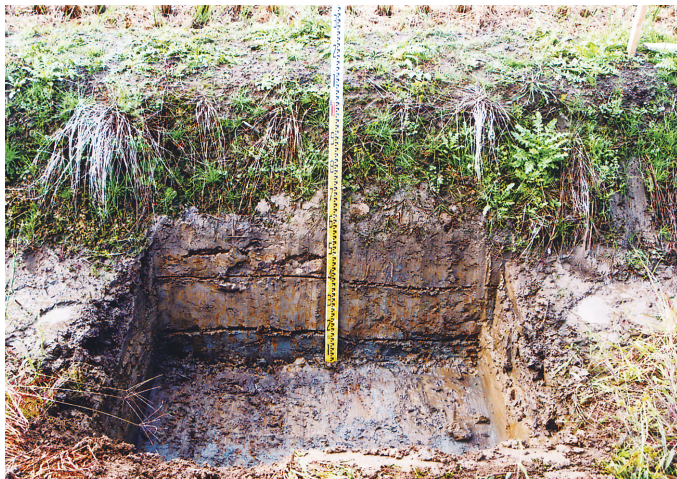
鬼倉遺跡 9～19 トレンチ調査地近景（南から）



鬼倉遺跡 7 トレンチ調査風景（南から）



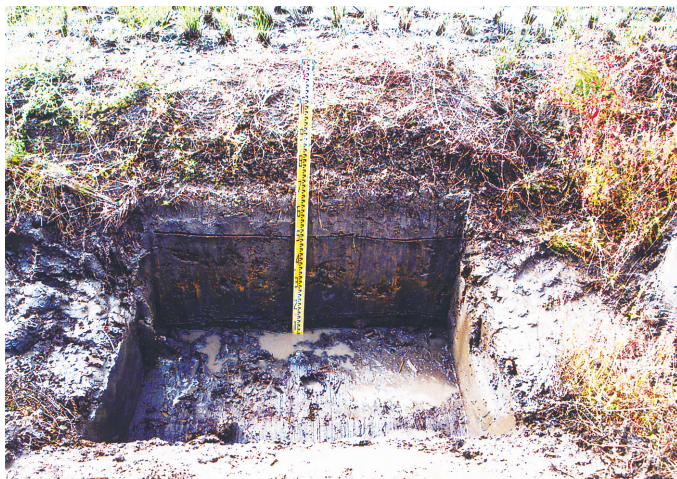
鬼倉遺跡 17 トレンチ調査風景（南西から）



鬼倉遺跡 1 トレンチ土層断面（北東から）



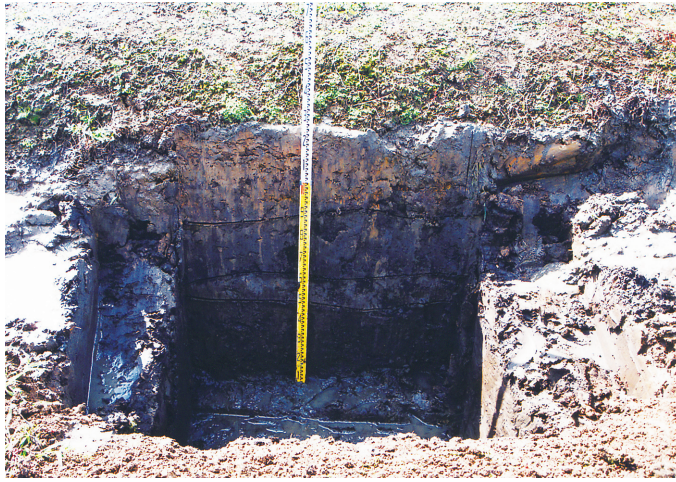
鬼倉遺跡 2 トレンチ土層断面（北東から）



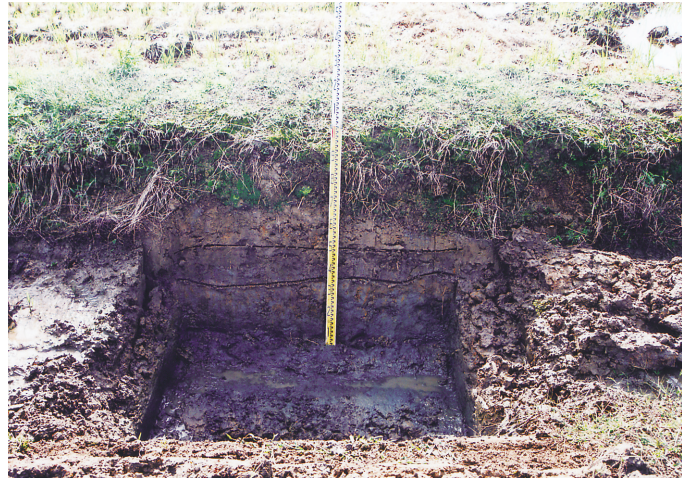
鬼倉遺跡 3 トレンチ土層断面（北東から）



鬼倉遺跡 4 トレンチ土層断面（北東から）



鬼倉遺跡 5 トレンチ土層断面 (北東から)



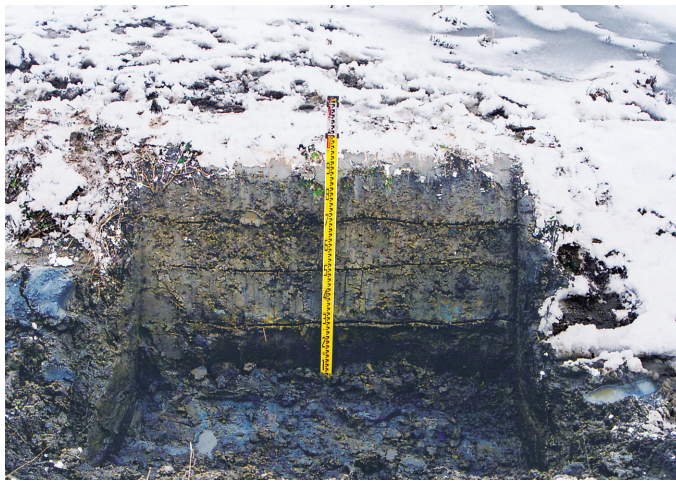
鬼倉遺跡 6 トレンチ土層断面 (北東から)



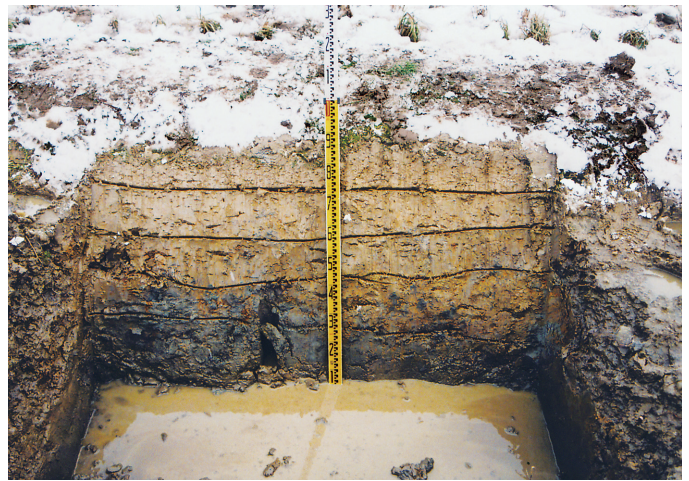
鬼倉遺跡 7 トレンチ土層断面 (北東から)



鬼倉遺跡 8 トレンチ土層断面 (北東から)



鬼倉遺跡 9 トレンチ土層断面 (南東から)



鬼倉遺跡 10 トレンチ土層断面 (南東から)



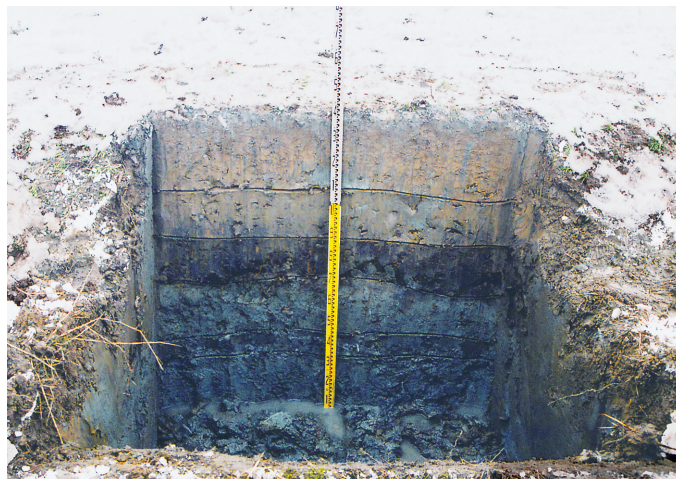
鬼倉遺跡 11 トレンチ土層断面 (南東から)



鬼倉遺跡 12 トレンチ土層断面 (南東から)



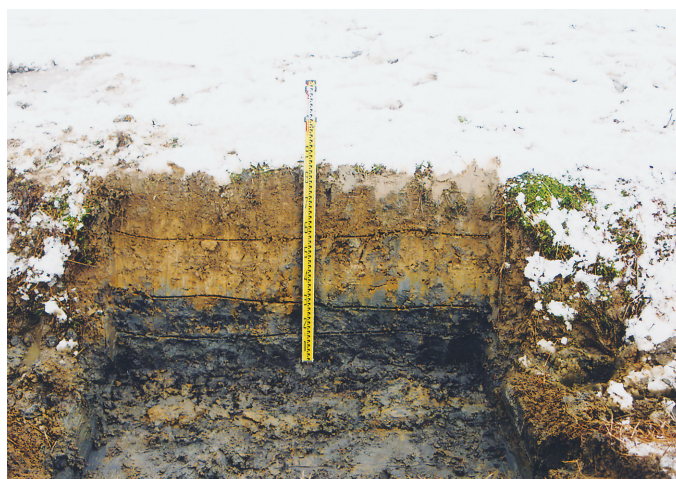
鬼倉遺跡 13 トレンチ土層断面 (南東から)



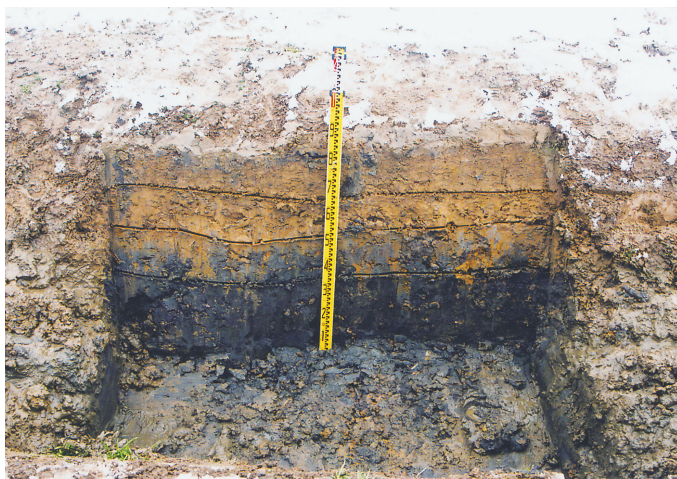
鬼倉遺跡 14 トレンチ土層断面 (北西から)



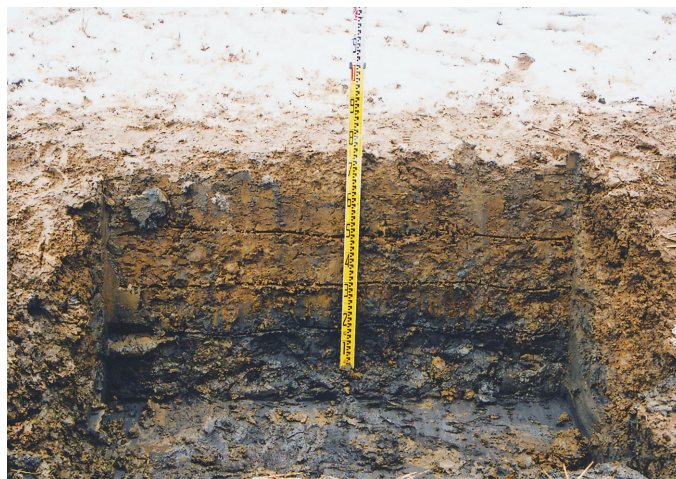
鬼倉遺跡 15 トレンチ土層断面 (北西から)



鬼倉遺跡 16 トレンチ土層断面 (北西から)



鬼倉遺跡 17 トレンチ土層断面 (南東から)



鬼倉遺跡 18 トレンチ土層断面 (南東から)



鬼倉遺跡 19 トレンチ土層断面 (南東から)



鬼倉遺跡 出土遺物 [1:2]

# 報告書抄録

ふりがな	かもしないいせきかくにんちようさほうこくしよ							
書名	平成 26 年度 加茂市内遺跡確認調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	加茂市文化財調査報告 (27)							
編著者名	伊藤秀和							
編集機関	加茂市教育委員会 社会教育課							
所在地	〒 959-1392 新潟県加茂市幸町 2 丁目 3 番 5 号 TEL (0256) 52-0080							
発行年月日	西暦 2015 年 7 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
なかざわいせき 中沢遺跡	かもしおおあざげじょう 加茂市大字下条 あざいえのうらおつ 字家ノ浦乙 543-1 番地	15209	119	37 度 39 分 53 秒	139 度 01 分 42 秒	20140918	34	倉庫建設工事
おにくらいせき 鬼倉遺跡	かもしおおあざげじょう 加茂市大字下条 あざおにくらおつ 字鬼倉乙 951-1 番地	15209	116	37 度 39 分 55 秒	139 度 01 分 27 秒	20141023 20150108 ~ 20150109	35.4	農業排水路改良工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
中沢遺跡	集落跡	弥生・古代						
鬼倉遺跡	集落跡	古代				土師器		

加茂市文化財調査報告 (27)

平成 26 年度

## 加茂市内遺跡確認調査報告書

中沢遺跡

鬼倉遺跡

印刷年月日 平成 27 年 7 月 27 日

発行年月日 平成 27 年 7 月 31 日

発行・編集者 加茂市教育委員会  
〒 959-1392 新潟県加茂市幸町 2 丁目 3 番 5 号  
TEL 0256 (52) 0080

印刷所 有限会社 いたう印刷  
〒 959-1378 新潟県加茂市駅前 4 番 4 号  
TEL 0256 (52) 0696